

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	31	学校名	茨城県立大洗高等学校						課程	全日制		学校長名		南雲 康司			
教頭名	藤崎 正輝											事務（室）長名		佐藤 健一			
教職員数	教諭	22	養護教諭	2	常勤講師	6	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	2	技術職員等	4	計	44
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		29	12	29	21	14	17			72	50	6				
	普通科音楽コース		6	25	12	19	8	23			26	67	3				

2 目指す学校像

- ・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校
- ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校
- ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	平成28年度から3年間、いばらき高等学校学力向上推進総合事業及び県立学校教育情報化推進事業の指定を受け、学習指導や評価の改善充実等を行ってきた。その後も研究を継続し、本校独自の計画により公開授業等を行っている。教職員は、引き続き各教科等の目標の実現と授業改善のための手立てとして、ICTを活用し、言語活動を充実させつつ、アクティブ・ラーニングを推進することに取り組んでいる。	生徒の実態を継続して的確に把握し、指導方法や指導内容の創意工夫に努め、生徒一人一人の学習意欲の向上や基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 そのため、現在行っている少人数授業の指導形態などを工夫改善するとともに、ICTの活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進のための取組等、教職員の指導力をさらに向上させることが課題である。

別紙様式 1 (高)

進路指導	令和2年度卒業生については、過去に引き続き100%に近い進路決定率を達成することができた。特筆すべきは3年連続国公立大学合格である。 就職に関して、求人数は依然として多い傾向ではあるが、昨今の社会状況を鑑み、体系的、計画的なキャリア教育を推進するとともに、求人開拓等生徒の進路実現に向けた取組をさらに推進する必要がある。 進学に関して、上位層の生徒が四年制大学等へ進学意識が高まっているが、依然として推薦入試、AO入試による合格が大半である。	生徒が早期に進路目標を明確に持ち、進路実現を意識した学校生活を送れるよう、三年間を通したキャリア教育の充実を図るとともに、面接指導、進学プロジェクトの充実、インターンシップの受け入れ企業の拡充を図る必要がある。 進学希望者に対して進路目標の実現、特に国公立大学への合格者を継続して出せる指導体制を構築することが課題である。
生徒指導	生徒は落ち着いた生活を送っている。生徒理解をより深めるために、全教職員で取り組む指導・支援の充実を図っている。 様々な取組の工夫により、欠席や遅刻、問題行動等が減少傾向にある。 基本的な生活習慣に関する指導や生徒の悩みを受け止めるための支援方法及び体制を確立させる取組を推進している。	基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の高揚や公共マナーの向上を図るために、今後も、共通理解の下、教職員が一体となって根気強く指導・支援を続ける必要がある。 家庭での生活状況や困りごと、学校での生活状況などについて、今後も学校と家庭、外部機関等が連携を密に図る必要がある。
特別活動	学校行事やボランティア活動などの様々な活動に対して、生徒会を中心に、生徒が主体的に取り組んでいる。 マーチングバンド部は、地域社会で広く学習成果を発表するとともに、全国大会において優秀賞を受賞するなど、積極的な活動を展開している。 普通科の生徒の部活動加入率は、増加傾向にある。	部活動加入率は増加傾向にあるものの、新入生の部活動加入のための指導方法・内容の改善等により、より多くの生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、活動意欲の高揚を図るとともに、指導体制の整備も課題である。
働き方改革	部活動加入率の増加や進学意識の向上など、活発に生徒が活動する場面が増えたため、教員の負担が増加傾向にあり、業務が特定の教員に偏る傾向が見られる。	教員の業務負担軽減に向け、特定の教員への仕事が偏らないように全職員で業務を分担し指導する体制の構築が必要である。生徒の活動の活発化に対応しつつ、効率的な指導を心がけ、業務に従事する時間の短縮に努めるようにする。

4 中期的目標

- 1 基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。
- 2 学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。
- 3 生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。
- 4 特別活動、部活動の充実を図る。
- 5 地域との連携を深め、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 6 生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。	①規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻や欠席を減らし、高校生らしい服装・頭髪、身だしなみを身に付けさせる。 ②奉仕活動や清美活動に積極的に参加する態度を養い、勤労の心を育てるとともに、生徒の人間関係づくりを推進する。
2 学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別少人数授業、ティーム・ティーチング等を積極的に取り入れ、全教科においてICTの活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。 ⑤校内検定の充実を図り、一般常識及び基礎学力を定着させる。
3 生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路室の効果的な利用を促進するとともに「進路だより」を発行し、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、キャリア・パスポートを活用して生徒の特性を把握し、生徒一人一人の希望に応じた的確な進路指導の充実を努める。 ⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。
4 特別活動、部活動の充実を図る。	⑨部活動等への加入率を高め、主体的に活動できる生徒を育成し、学校生活の活性化を図る。 ⑩生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図り、社会性や人間性を養う。
5 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	⑪学校に関する様々な情報をホームページ等により保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。 ⑫教務部広報広聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。 ⑬学校行事への住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。
6 生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。	⑭積極的な生徒に対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的に行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑮業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑯効率的な指導や業務改善を図り、勤務超過の時間短縮に努める。